

余りに幼稚

9月4日の夜、塾帰りの小学6年生の女兒を旅行用かばんの中に押し込み、タクシーのトランクに閉じ込めて監禁したとして、成城大学（東京）の学生、小玉智裕容疑者（20歳）が現行犯逮捕されるという事件が発生しました。

今回は、タクシー運転手の機転で最悪の事態は避けられましたが、事件を起こした小玉容疑者の幼稚さには呆れかえるばかりです。大学関係者も、さぞかし驚天動地の有様ではないかと思えます。

一口に大学生といっても色々な人間がいますので、中には犯罪に手を染める者も出てきますが、それにしても、今回の事件の顛末を見ていると、余りの幼稚さに声も出ません。

「やりたいと思ったら周りが全く目に入らなくなる」という事では、子どもというより幼児といった方が良く、体も大きく体力もあるという点では、幼児よりもまだ悪いといわざるを得ません。

普通の大人は、自分が犯罪者になったら親を泣かせる事になるとか、兄弟や友人への迷惑、被害者やその家族の嘆き悲しみ、更には犯罪者というレッテルを貼られる事による社会的影響といった、様々な負の想像力が働き、それが抑止力となって自分の行動をコントロールしています。

今回事件を起こした小玉容疑者には、少なくともそうした想像力が欠如していたのだろうと考えられますが、空恐ろしい事です。

更に、この事件の前日にはもっと悲惨な事件が発生しています。

その事件は、愛知県名古屋市で、小学1年の女兒を自宅マンションに監禁したとして、職業不詳の水島誠容疑者（23）が監禁の疑いで現行犯逮捕されたというものです。女兒には怪我がなかったことは幸いだったのですが、愛知県警が自宅を捜索したところ、水島容疑者の父親とみられる男性の遺体が見つかり、県警は女兒監禁・男性殺人事件として捜査を行っています。

県警によると、水島容疑者が、女兒監禁の発覚を恐れて父親を殺害したという趣旨の供述をしているそうですが、一体水島容疑者は、父親を殺害した後どうするつもりだったのでしょうか。どうするつもりもなく、ただ茫然としてい

たものなのか私には想像もつきません。ただ、彼の住む世界が余りにも空虚であることに言葉を失います。

二つの事件については、今後詳細が明らかになってくると思いますが、これらの事件に共通しているのは、いずれも幼い子どもを相手に監禁しているという事です。

物理的に抵抗できない、幼い子どもを相手にした卑劣な行為は決して許されるものではありませんが、そういっているだけでは、こうした事件の再発を防ぐことは出来そうにもありません。

子ども達の身を守る防犯グッズも各種出回っているようですが、まずは、子ども達が安心して生活できるように、学校や警察だけでなく、地域全体で子ども達を見守る体制をしっかりと取っていく事が重要です。(塾頭 吉田 洋一)